

# きずな通信 No.42



2021年11月1日  
発行 みやぎ地域づくり交流会  
事務局 宮城公民館内

地域づくりは人づくり、ふるさとづくり

## 荒砥川美化運動

50人の協力により遊歩道が綺麗に清々しく

【自然環境交流部会】

プロジェクトの「清流荒砥川に集う」も11年目を迎え今年度の荒砥川美化運動（草刈り作業）を10月10日に行いました。当日は天候に恵まれ秋だというのに蒸し暑い日の作業でした。各町の自治会を始めとする50人のボランティアの方々によりコロナ禍でなかなか活動が出来なかったので背丈程の草木で生い茂った河川沿いの遊歩道も見違える程に綺麗になりました。今後も地元の憩いの場として定着して行けるよう活動を継続して行きます。ご協力頂いたボランティアの皆さま大変お疲れさまでした。

（記 大崎博之）



YouTube



フェイスブック

今回の活動の様子はYouTubeでご覧いただけます。左のQRコードをカメラでかざして見てください。

福祉交流部会より  
エコキャップ回収のお願い

エコキャップ運動は、ペットボトルのキャップを回収しリサイクルにまわし、新たな製品に生まれ変わらせたり、売却益を発展途上国の医療支援に活用したりする運動です。

マイクロプラスチックによる海洋汚染は、近年深刻な環境問題のひとつになっています。この機会に家庭から排出されるプラスチックごみの分別を進めるとともに、環境問題について考えてみてはいかがでしょうか？

福祉交流部会では、平成20年から回収運動に取り組んでいますが、回収ボックスが宮城公民館、宮城支所、社会福祉協議会宮城支所に設置してありますので、ご協力くださいますようお願いいたします。

なお、エコキャップ運動で回収するキャップは、50mlのペットボトルのキャップ同等品になりますので、ご注意ください。うえてご協力お願いします。

過去3年の回収量は次のとおりです。

平成30年度 486.8kg  
令和元年度 381.2kg  
令和2年度 355.3kg

# 三夜沢あずき

## 復活プロジェクト

着用し作業を行いました。

令和2年度から、新型コロナウイルス感染症対策として、さまざまな活動が制限されてきました。地域づくり交流会も同様でイベントがなくなり、地域づくりのお手伝いが困難になりました。

そんなコロナ禍でも可能な活動は維持していこうと、三夜沢あずき復活プロジェクトを継続しています。

令和3年6月26日(土)に地域づくり交流会の有志の協力を得て種まきを行いました。暑い中感染対策を行い、マスクを



6月26日(土) 種まき



8月22日(日) 除草作業

令和3年8月22日(日)には、除草作業を行いました。やはり暑い日で、マスクの中は汗だくになっていました。

そんな三夜沢あずきも収穫を迎えます。どのように使用されるのか楽しみですよ。

(前原清 記)

## カレンダー プロジェクト 進捗状況

会員の発案から始まった、「地域づくりカレンダープロジェクト」の進捗状況をお知らせいたします。

まずはカレンダーの形ですが、「家庭のテーブルの上や電話の横に置いて、利用していただく卓上カレンダーの方向で進んでいます。卓上の土台となる素材は、みやぎ地域で伐採された材木を使用したいと考えています。

これまでに撮りためた、地域づくり交流会の活動や、地域の四季折々の風景写真を用いた、地域づくり交流会らしいデザインにしたいと考えています。みなさまのご意見をお待ちしております。(前原清 記)

七字ファミリー きずな劇場 第28話

拙者は2回うったでござるよ

みんなー! ワクチンうったあ? ワクチンうったあ?

わたしはまた1回

手指の消毒も、しっかりね

え? なんでみんなの姿がみえないって?

なぜなら...

ソーシャルディスタンス!!

え? 今回の漫画 手を抜いてない...?

作:しぶ 画:かば 手は抜いてません... ©みやぎ地域づくり交流会

## 宮城地区のよもやま話 ⑧

### 金剛寺の丑之助翁句碑

苗ヶ島町金剛寺山門脇に宮城地区の自治や文化の向上に多大な功績を遺された上野丑之助翁の句碑がある。翁は伝統俳句の村上鬼城に師事し赤峰を俳号とした。後に本名丑之助を号とし自由律現代俳句の金子兜太門下で活躍した。

「芋畑の大きな月が椀の中」。碑の句は昭和62年、海程例会で特別賞になり、主宰の金子兜太は「古きよきものを現代に生かし、老熟の度合高い作品である」と評している。

平成11年3月27日、曾孫の泰代さん(当時13)と香織さん(同8)の除幕のあと、来賓の金子兜太は「芋畑」くらいは詠む俳人はいるだろうが、『大きな月』といえる俳人はいるようではない。多くの俳人は有名になるため中央に向って俳句を作っているが、上野さんはここ(群馬)で死んでいくのだからここで句をつくらねと言っていた。そこが上野さんの立派なところだ。」と挨拶している。

作者の人格・俳句の内容共に深みのある句碑である。

(五百部 記)

